

成人を祝う



平成30年西原町成人式が、1月7日にさわふじ未来ホールで、家族や恩師など多くの方が見守る中、華やかに開催されました。男性263名、女性219名の計482名の新成人が、希望を胸に式典に参加しました。

成人代表挨拶を務めた大城璃紗さんは「これまで多くの人に支えられてきましたが、今後は周りの人々を支えていく大人になれるよう、立ち回れる困難を乗り越え、それぞれの未来に向かって、これからも精進します」と述べました。



町歌斉唱のようす



大城さん

筆に込める 新年の思い

西原町新春かきぞめ大会、主催・町教育委員会、町文化協会が、1月6日に町民体育館で行われました。106名の子どもたちが参加し、今年目標や決意などを文字にしました。また、縦横160センチの半紙に文字を書くアトラクションでは、身長と同じくらいの大きさの大筆の重さや大きさに負けないよう、両手でしっかり押さえながら、力強く書いていました。

教育長賞(最優秀賞に相当)には「四海生春風」という文字を書いた添盛桃子さん(西原中3年)が選ばれました。



西原小で 自転車講習



浦添警察署、交通安全協会による、児童を対象とした自転車の安全な乗り方教室が、12月20日に西原小学校体育館に模擬交差点を設営して行われました。まず、協会員が交差点での自転車の急な飛び出しによって人や車が接触する危ない場面を再現した後、交差点を通る際は自転車を降りての一時停止、信号が青の際にも左右を確認するなどの安全な乗り方の手本を見せました。

また複数の児童が代表して安全な乗り方を体験するなど、児童は自転車の安全の乗り方を学んでいました。



花の水やりで 見守り活動

児童生徒の安全な環境整備の推進を目的として、浦添・西原地区安全なまちづくり推進協議会から上原自治会(石原昌貴会長)に花の苗やフラワーポットなどが贈呈されました。フラワーポットを通学路に設置して、多くの住民が朝夕の登下校の時間帯や通勤時間帯に水やりをすることで、子どもや女性の見守り活動につながります。

石原会長は「いただいたフラワーポットを活用して、地域の安全に取り組みます」と述べました。



返礼品発掘で 地域活性化

西原町(上間町長)と西原町商工会(金城末幸会長)による西原町ふるさとづくり寄附金返礼品等取扱業務に関する契約締結式が、12月28日に西原町役場で行われました。本契約は、返礼品の安定供給や積極的アピールによる寄附件数の増大や、魅力的な返礼品の開発や調達などを目的としています。

上間町長は「返礼品発掘により新たな産業の掘り起こしを展開し、地域の活性化につなげたい」と期待を述べました。



比嘉清美さん 青少年育成で表彰

青少年の健全育成に尽力してきた比嘉清美さん(字我謝)が、第38回県青少年育成大会において青少年育成功労者として表彰されました。

これまでPTAや社会教育委員、防犯リーダー活動などに尽力するとともに、育成者の研修や指導においても貢献してきた比嘉さんは「嬉しさと同時に、身が引き締まります。今後も時代のニーズに合った育成方法を学び、また後輩の育成を続けていきます」と受賞の喜びと今後の意気込みを述べました。



仲松ナエさん 県漁連会長賞

水産資源創出や地域活性化の事例を発表する第23回沖繩県青年・女性漁業者交流大会において、与那原・西原町漁協女性部に所属する仲松ナエさん(字安室)が同女性部の活動実績を発表し、県漁連会長賞として表彰されました。

ヒジキを活用したジュシーの素や佃煮のレトルト食品の開発や販売実績、お中元やお歳暮などでの活用を発表しました。さらに、昨年1月に西原町と与那原町が拠点産地として認定された「ソデイカ」のソフト燻製など、加工販売の取組拡大の展望についても述べました。

※ソデイカについて、裏表紙に特集を組んでいます。



仲松さん(左から二番目)

文化財 〇〇

お正月はいくつある



新年を迎えてひと月が過ぎ、お正月気分も抜け、今年目標に向かって仕切り直している頃でしょうか。

現在は、日本本土と同じ新暦一月一日にお正月を祝っていますよね。みなさんもお年玉をあげたりもらったり、初詣に行ったりしたかと思えます。しかし、沖縄ではお正月が三つあって、これからあと二つやってくるのです。

一定の井戸で若返りの水といわれる若水を汲み、顔をあらったり、家の仏壇などに供えたりしました。現在でも、糸満市や南城市久高島といった地域では旧正月を祝い、さまざまな伝統行事が行われています。それらの地域では、お年玉を二度もらっているかもしれませんね。

この時期、お隣中国は、春節という旧正月の大型連休にあたります。近年では沖縄にも多くの中国人観光客が訪れ、新たな風物詩となっています。

三つのお正月は、あの世の正月で、旧暦一月十六日にあたるので「十六日」と呼ばれており、ご馳走を持ってお墓参りをする日となっています。

宮古や八重山といった離島では最も大きな行事とされ、親せきがお墓の前に集まり、先祖の供養を行います。



新暦の正月を迎える棚原ノロ殿内の飾り



旧暦一月十六日に拝まれた棚原グスク内にねむる先祖たちの古墓

三つのお正月にはそれぞれ意味があります。いろんな文化を取り入れつつも、古くからの伝統も守られています。これから沖繩では、沖繩らしい正月行事が続いていくことでしょう。

【注】 按司墓…その土地の支配者階級を葬った墓、またはその土地の祖先を祀った墓。 御嶽…沖繩の聖なる空間で、聖なる場所。

お問い合わせ 教育部 生涯学習課 文化財係 ☎九四四・四九九八